

教科	公民	単位数	2	コース・学年	1年全コース	必修
科目	公共	使用教科書等	高等学校 公共 帝国書院 高等学校 公共ノート 帝国書院			

1 科目の概要および目標

概要 人間の存在や価値に関わる基本的な課題について思索する活動を通して、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念にも基づいて国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家の形成者としての必要な資質・能力を身につけるよう指導していく。

目標 人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追求したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

(1) 評価の観点

1. 知識・技能	2. 思考力・判断力・表現力	3. 主体的に学習に取り組む態度
現代社会の諸課題について考えるために必要な、用語や理論について、理解し、活用することができるか。	現代社会の諸課題に気づき、その課題解決に向けて、考え、表現することができるか。	自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど、自らの学習を調整しながら学ぼうとする意欲がみられるか。

(2) 評価の方法

- ①定期考査や実力考査の内容：出題範囲における知識と技能の習得の状況。思考・判断・表現を評価とします。
- ②日々の授業態度やプリント、演習ノートなどの取り組み状況
- ③学習活動の様子・発表、討論、自己評価の振り返りシートを参考とします。
- ④これらの方法で得られた評価に関する情報を総合的に判断し評価します。

3 授業の展開と形態

授業は学級単位ごとに実施。グループ学習やペアワークなどを通して、主体的・対話的に物事を考える力を身につけさせる。

4 学習方法

- (1) 授業は、教科書・準拠ノートやプリントを使いながら進めていく
- (2) 学習内容に応じて図書館やインターネットなども活用する
- (3) ニュースを観て時事問題や自分の考えをまとめる練習をおこなう

月	時数	単元・教材名	学習の目標(学習のねらい)
第1章 青年期と社会参加			
人間とは何かを考え、今を生きる青年期の特徴を理解しながら、客観的に自己を見つめる力を養い、主体的に自己形成の課題を追求していく課題解決能力を養う。			
4月	1	1 私たちの生きる現代社会	・私たちの生きる現代社会は、どのような社会だろうか
	1	2 青年期について考えよう	・青年期に直面する課題に、私たちはどう向き合えば良いのか
	1	3 悩むことについて考えよう	・悩みとその解決方法を考える
	1	ジェンダーについて考えよう	・多様な性について、その共存について考える
	1	学ぶことについて考えよう	・学ぶ意義とは (なぜ学ぶのか)
	1	社会参画とキャリアについて考えよう	・自己実現を図るために、どのような社会参画が出来るだろうか
2節 宗教・思想・伝統文化と社会			
人々の生活には、宗教が深く関わっていることを理解させる			
5月	1	宗教について考えよう	・世界宗教と民族宗教について考える
	1	日本の思想について考えよう	・日本の思想はどのように形成されたか考える
	1	日本の伝統文化について考えよう	・日本人の宗教的寛容さに気づかせる
1節 倫理的な見方・考え方			
先人の考えを通してよく生きるために大切なこと、よい行いのための判断基準をどのように育てるのかを理解させる。			
5月	1	よく生きる 古代ギリシャの思想	・よりよく生きるために大切なことは何だろうか
	1	人とは何か 古代中国の思想	・人間とは何かを、他者と絡関わりについて考えさせる
	2	動機と結果 近代西洋の思想	・人間の尊厳の根拠について考える。また、良い行いのための判断基準とは何だろうか
	1	公平と正義 現代の思想	・公正な社会の実現のためには、何が必要かを考えさせる
1節 社会の基本原則と憲法の考え方			
日本国憲法の基本原則がめざす、ものについて理解させる			
6月	1	近代立憲主義の原理	・立憲主義とは何なのかを考えさせる
	1	近代立憲主義の広がり	・近代立憲主義はどのように広まったかを理解する
	1	日本国憲法	・日本国憲法の成立過程について考える (ミニテスト)
	1	平等に生きる権利	・平等権の保障のためにどのような取り組みが行われているか
	1	自由に生きる権利①	・精神的な自由とはどのような自由だろう
	1	自由に生きる権利②	・身体的自由や経済的自由としてどのような事が保障されるか
	1	人間らしく生きる権利	・人間らしく生きるために、憲法はどのような権利を保障しているか
	1	広がる人権の考え方	・新しい人権の保障が必要となってきているのはなぜか
1	人権保障の国際的な広がり	・国際的な人権保障はどのように広がってきているか	
第2部 社会のしくみと課題			
社会のしくみについて学び、理解し、現代社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した法的主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身につけさせる。その諸課題の解決に向けて主体的に取り組み、論拠を持って表現できるようにする。			

7月	1	社会規範と法	校則、規範、法律、それぞれ何が違うのか考える
	1	私たちの生活と法	人の一生には、どれぐらいの法律が関わっているのか考える
	1	契約の考え方	契約とは何か、18歳成人に向けてどのような問題があるか考える
	2	消費者の権利と責任	消費者問題とは何か、なぜ起こるのか考える。消費者問題を解決するためにはどのような取組が必要か考える。
	1	司法の役割	司法のしくみを学び、どのような役割があるのか考える
	1	刑事裁判とその課題	刑事裁判のしくみを理解し、裁判官・裁判員の立場からどのように判断するか考え、その課題を探る
9月	1	政治と権力	政治権力とは何か、なぜ権力が存在するのか考える
	1	議院内閣制と国会	議院内閣制としくみや国会のしくみについて考える
	1	権力分立と行政の役割	首相や大臣はどのような役割を持っているのか考える
	1	地方自治の役割	地方自治の役割を学び、住みやすい町にするにはどのような取組が必要か考える
	1	政党政治とメディア	政党政治とは何か、メディアの役割は何かを学び、それぞれどのような役割をもっているのか考える
10月	2	選挙制度とその課題	選挙制度のしくみを理解し、その課題について考える
	1	国家と国際法	国家とは何か、国際法の種類を学び、国際社会の中で必要なルールはについて考える
	1	日本の主権と領土	国家の三要素、主権が及ぶ範囲、日本の抱える領土問題等を学び、解決方法について考える
	1	平和主義と日本の防衛政策	日本の平和主義にはどのような特徴があるか、日本の防衛生政策について学び、その問題点について考える
	1	これからの日本の安全保障	日本の平和と安全を維持するためにはどのような取組が必要か考える
	1	国際連合の役割と活動	国際連合の歴史やしくみを学び、国際連合が抱える問題などを考える
11月	1	紛争とテロリズム	紛争やテロリズムがどのような地域で起こっているのか、その原因について考え、解決するためにはどのような取組が必要か考える
	1	核兵器と軍縮の課題	米ソ対立、軍縮の歴史や新たな問題について学び、軍縮をすすめていくにはどのような取組が必要か考える
	1	国際協力と日本の役割	これまでの国際協力のあり方や日本の取組を学び、日本が出来る・自分自身ができる国際協力にはどのようなものがあるか考える

1節 市場経済のしくみ

自立した主体としてより社会の形成に参画することに向けて、現実社会の諸課題に関わる具体的な主題を設定し、幸福、正義、公正などに着目して、他者と協働して主題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。

11月	1	経済とその考え方	経済とは、どのような活動をいうのか
	1	市場のメリットと限界	市場メカニズムが機能しないのはどのような場合か
	1	企業の目的と役割	企業の活動目的と、その役割は何か
	1	金融の役割	金融とは何か、どのような役割があるのか
12月	1	政府の役割と財政の機能	市場経済における政府の役割と財政の機能とは何か
	1	日本の財政の課題	日本の財政課題にはどのようなものがあるか
	2	経済の変動	①経済はどのように、成長していくのか②租税の役割と課題にはどのようなものがあるか

2節 豊かな社会の実現

変化する産業構造と労働の在り方、社会保障の意義と課題に対する生活か理解に基づき、国民福祉の向上に向けた取組について自分の意見を表現する事を通じて、職業選択、雇用と労働問題、少子高齢化社会における社会保障の役割といった諸課題について理解させる。

1月	1	産業構造の変化と職業選択	産業構造が変化する要因にはどのようなものがあるか
	1	中小企業と農業	中小企業や農業の強み、弱みとは何か
	1	労働者の権利	労働者の権利が保障されるのはなぜか
	1	雇用と労働に関する課題	人口減少社会の中で、どのような雇用対策がもとめられるか
	1	社会保障の役割と意義	多くの国で、政府が社会保障制度を主導しているのはなぜか
	2	社会保障制度の課題	日本の社会保障制度を持続可能なものにするには、何が必要か

3節 国際経済の動向と格差の是正

グローバルの進展により経済活動が世界的な規模で行われている事に対する正確な理解に基づき、貧困な格差のないより良い国際社会の形成に向けた取組について自分の意見を表現することを通して、経済のグローバルと相互依存の深まり、国際社会における貧困や格差の問題などについて理解させる。

2月	1	国際経済のしくみ	国家間で貿易が行われているのはなぜだろうか
	1	国際経済の枠組み	国際経済にはどのような機関やルールがあるか
	1	地域経済統合	地域経済統合にはどのような特徴があるか
	1	地域経済統合	地域経済統合にはどのような特徴があるか
	1	グローバル化と自由貿易協定	経済のグローバル化の進展は、どのような影響を与えているか
	1	国際経済の変化と課題	グローバル化が進む中、国際経済にはどのような変化がおきているか
	1	経済格差の是正	経済格差の是正にむけて、どのような取り組みが行われているのだろうか

第3部 持続可能な社会の実現に向けて

第1部第2部の学習を振り返りながら、各領域を横断する課題のを探求する単元である。

3月	3	課題の設定	持続可能な社会に実現にむけ、私たちができることにはどのようなものがあるのだろうか
		情報の読み取りと整理	
		課題の探究	
		探究結果の表現	

教科	地理歴史	単位数	2	コース・学年	2年全コース	必修
科目	地理総合	使用教科書等	第一学習社 「高等学校 地理総合」 「標準高等学校」「高等学校 地理総合ノート」			

1 科目の概要および目標

概要 社会的現象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

目標

- ・地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球の課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- ・地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- ・地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについて自覚などを深める。

(1) 評価の観点

1. 知識・技能	2. 思考力・判断力・表現力	3. 主体的に学習に取り組む態度
世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球の課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。

(2) 評価の方法

- ①定期考査や実力考査の内容：出題範囲における知識と技能の習得の状況。思考・判断・表現を評価とします。
- ②日々の授業態度やプリント、演習ノートなどの取り組み状況
- ③学習活動の様子・発表、討論、自己評価の振り返りシートを参考とします。
- ④これらの方法で得られた評価に関する情報を総合的に判断し評価します。

3 授業の展開と形態

授業は学級単位ごとを実施。グループ学習やペアワークなどを通して、主体的・対話的に物事を考える力を身につけさせる。

4 学習方法

- (1) 授業は、教科書・準拠ノートやプリントを使いながら進めていく
- (2) 学習内容に応じて図書館やインターネットなども活用する
- (3) ニュースを観て時事問題や自分の考えをまとめる練習をおこなう

月	時数	単元・教材名	学習の目標(学習のねらい)
第1編 地図や地理情報システムでとらえる現代世界			
1章 地図や地理情報システムと現代世界			
1節 地球上の世界と地図			
4月	1	目的地への行き方	・目的地へはどのようにたどり着くのだろうか
	1	地球上の位置	・球面上の位置はどのように表されるだろうか
	1	世界の時差	・世界各地の時刻はどのように決められているだろうか
	1	世界地図の見方・使い方	・地図は何を正しく伝えているだろうか
	1	地図から読み取れる情報	・地図からどのような情報が発信されているのだろうか
	1	地理情報システムの活用	・情報を地図化すると何がわかるだろうか
2節 国家の結びつきとグローバル化する社会			
5月	1	国家の領域と国境	・国家の領域とはどこまでだろうか
	1	日本の領域とさまざまな領土問題	・日本の領域はどこまでなのだろうか
	1	国境をこえた結びつき	・国と国の結びつきにはどのようなものがあるだろうか
5月	1	交通機関の発達と縮小化する世界	・交通機関はどのように発達してきたのだろうか
	1	情報・通信で一体化する世界	・情報・通信技術はどのように変化しているのだろうか
	1	拡大する世界の貿易と物流	・日本や世界の貿易はどのように変化しているのだろうか
1	グローバル化と人の移動による結びつき	・人々の移動はどのように変化しているのだろうか	
第2編 国際理解と国際協力			
1章 生活・文化の多様性と国際理解			
6月	1	世界の生活を文化を写真でつかもう	・写真からどのような事が読み取れるだろうか
	1	人々の生活に彩りを与える気候	・気候は人々の生活にどのように関わっているのだろうか
	2	「衣」から見る世界	・世界の人々はどのような衣服を着ているだろうか
	2	「食」から見る世界	・世界の人々は何を食べているのだろうか
7月	2	「住」から見る世界	・世界の人々はどこにどのように住んでいるのだろうか
	1	暮らしを豊かにする産業	・産業の発展は私たちの生活にどのように変えたのだろうか
	2	宗教と人々の暮らし	・世界にはどのような宗教があるのだろうか
	1	暮らしを楽しむための文化	・世界の人々は観光をどのように楽しんでいるのだろうか
7月	2	多様性に富んだ世界の人々の共生	・世界の人々と共生していくために必要なことは何だろう
	1	海外の高校生に自分の地域を知ってもらおう	

2章 地球的課題と国際協力			
1節 持続可能な社会を目指して			
	2	持続可能な開発目標 (SDGs)	・持続可能な社会とはどのような社会なのだろうか
	2	地球的課題の地理的側面	・なぜ、地球的課題を地理的に見る必要があるのだろうか
9月	2節 すべての人々の尊厳と平等が守られた社会に向けて		
	1	貧困問題	・貧困はどこでどのような問題が生じているのだろうか
	1	人口問題	・人口の変動によってどのような問題が生じているのだろうか
	1	食料問題	・すべての人が安定的に食料を確保するためにはどうすればよいだろうか
	2	持続可能な水の利用	・すべての人が安全な水を持続的に利用するためにはどうすればよいだろうか
10月	2	健康・福祉問題	・すべての人が健康な生活を送るために必要なことは何だろうか
	2	教育・ジェンダー問題	・だれもが生きやすい社会を実現するにはどのようにすればよいだろうか
3節 自然と調和した豊かな社会にむけて			
11月	1	限りある資源	・限りある資源をどのように活用すればよいだろうか
	1	エネルギー問題	・どのようなエネルギー利用が求められているのだろうか
	1	都市・居住問題	・世界の都市ではどのような問題を抱えているのだろうか
4節 現役世代と将来世代のための地球			
11月	1	地球温暖化問題	・地球温暖化は世界をどう変えたのだろうか
	1	陸地の環境問題	・世界の陸地の環境はどのような危機に直面しているのだろうか
	1	海洋の環境問題	・世界の海ではどのような環境変化が起きているのだろうか
5節 平和で公正な社会に向けて			
12月	1	世界の民族と民族問題	・なぜ、民族間で対立が起こっているのだろうか
	1	世界の様々な紛争	・なぜ、世界では紛争が起きるのだろうか
	2	さまざまな紛争	・平和な世界を実現するためにはどうすればよいだろうか
第3編 持続可能な地域づくりと私たち			
1章 自然災害と防災			
1月	1	地球規模でみる地形の姿と自然災害	・なぜ自然災害は地域的に偏って起きるのだろうか
	1	人々の暮らしを取りまく自然災害	・なぜ日本は自然災害が多いのだろうか
	1	変動帯の自然と防災	・火山地域で暮らしていく知恵とは何だろうか
2月	1	湿潤地域の自然と防災	・日本の気候にはどのような特徴があるのだろうか
	1	水害ハザードマップを読み取ろう	・風水害にどのように備えればよいだろうか
	1	私たちができる災害への備え	・減災に必要な考え方・行動にはどのようなものがあるのだろうか
3月	地域調査の方法		・地域調査はどのように進めればよいだろうか
	3	地域調査の方法を学ぼう	
	持続可能な観光地づくりを考えよう		

令和5年度 歴史総合シラバス

教科	地理歴史	単位数	2	コース・学年	2年全コース	必修
科目	歴史総合	使用教科書等	歴史総合(実教出版) 歴史総合演習ノート(実況出版) 明解歴史総合図説シンフォニア(帝国書院)			

1 科目の概要および目標

概要 近現代中心に学習する「世界史A」と「日本史A」を統合して設置した科目。「歴史総合」では、近現代の歴史を「近代化」「大衆化」「グローバル化」という観点から着目し、世界と日本そして郷土沖縄の動きを学び、平和で民主的な社会の実現を目指す。

目標 社会的事象の歴史的な見方、考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 評価の観点

1. 知識・技能	2. 思考力・判断力・表現力	3. 主体的に学習に取り組む態度
近代化の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を調べ、まとめる技能を身に付けている	近現代の歴史の特色などを、現在とのつながりなどに着目して、多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、議論できるか。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする意欲が見られるか。

(2) 評価の方法

- ①各科目担当教員が作成する定期考査等の内容：出題範囲における知識と技能の習得の状況。思考・判断・表現を評価とします。
- ②日々の授業態度や板書やプリントの書き取り、演習ノートなどの取り組み状況の評価をします。
- ③学習活動の様子・発表、討論、自己評価の振り返りシートを参考とします。
- ④これらの方法で得られた評価に関する情報を総合的に判断し評価します。

3 授業の展開と形態

授業は学級単位ごとに実施。一斉授業、グループ学習やペアワークなどを通して、主体的・対話的に物事を考える力を身につけさせる。

4 学習方法

- (1) 授業は、板書やプリントを使いながら進めていく
- (2) 学習内容に応じて図書館や必要があればインターネットなども活用する
- (3) 単元の内容と現代等を比較しながら自分の考えをまとめる練習をおこなう

5 授業の計画(通史を学習した場合の目安。テーマ史が入る場合が変更ある)

月	時数	単元・教材名	学習の目標(学習のねらい)
歴史の扉			
私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象を基に、それらが日本や日本周辺の地域及び世界の歴史とつながっていることを理解する			
4月	1	オリエンテーション	1年間の学習について説明します。
	1	日本の盆踊りを外国でおどる パレエの誕生と発展	身近な話題と歴史をむすびつけられるか。
	1	古典的か近代的か 欧米文化と日本文化の交流	身近な話題と歴史をむすびつけられるか。
	1	植民地朝鮮の舞踊	身近な話題と歴史をむすびつけられるか。
	1	お茶・食文化から見る日本と世界の歴史	身近な話題と歴史をむすびつけられるか。
	1	身近な史跡から見る日本と世界の歴史	身近な話題と歴史をむすびつけられるか。
第1章 近代化への胎動			
18世紀の日本やアジア、ヨーロッパは、それぞれどのように結び付いていたのだろうか。			
5月	1	江戸時代の日本と東アジア秩序の変動	江戸時代の日本と世界は、どのように結び付いていたのだろうか。
	1	江戸時代の生産・流通と諸改革	江戸時代後期の日本は、どのような社会だったのだろうか。
	1	幕政改革と東アジア	18世紀の清は、アジアやヨーロッパとどのように結び付いていたのだろうか。
第2章 欧米の市民革命と「西洋の衝撃」			
欧米で起こった市民革命・産業革命により、社会はどのように変化したのだろうか。			
5月	2	イギリス産業革命とアメリカ独立戦争	アメリカの独立戦争によって、どのような政治体制が生まれたのだろうか。
	2	フランス革命とウイーン体制	フランス革命によって、政治と社会はどのように変化したのだろうか。
	2	ナポレオン	フランス革命は、当時の欧州やアメリカ大陸の政治にどのような影響を与えたのだろうか。
6月	1	諸国民の春と社会主義	1848年を境に、ヨーロッパではどのような社会に変化していったのだろうか。
	1	世界市場の形成 1	欧米による世界市場の形成は、世界をどのように変えていったのだろうか。
	1	アメリカとラテンアメリカの独立	アメリカは、どのようにして国内統一と工業化を達成したのだろうか。
	2	オスマン帝国の衰退とロシア	イスラーム諸国は、ヨーロッパ諸国の進出により、どのような影響を受けたのだろうか。
	1	アヘン戦争の衝撃と日本の開国	日本は、欧米諸国の進出に対して、どのように対応したのだろうか。
1	江戸時代の滅亡	日本では、近代化を受け入れるにあたり、どのような対立があったのだろうか。	
第3章 欧米諸国と日本の国民国家形成			
近代化した欧米諸国の進出に、アジア諸国や日本はどのように対応したのだろうか。			
6月	2	英仏の繁栄と独伊の統一	イギリス・フランス・イタリア・ドイツではどのように近代国家形成を展開したのだろうか。
	1	明治政府の諸改革	明治維新により、日本はどのような国家に変化したのだろうか。
	1	日本のアジア外交と国境問題	日本は、近代国家となるために、どのような政策を進めていったのだろうか。
	1	自由民権運動と大日本帝国憲法	秩父事件は革命か暴動か。

第4章 帝国主義			
日本や東アジア諸国は、近代化を通じてどのように変化していったのだろうか。			
7月	1	帝国主義の時代へ	アジアの各地にヨーロッパの植民地が形成されていったのだろうか。
	1	朝鮮をめぐる国際関係と日清戦争	近代化の進展により、日本・清・朝鮮の国際関係は、どのように変化したのだろうか。
	1	日清戦争後の東アジア	日清戦争後、日本や清ではどのような変化があったのだろうか。
	1	日露戦争と東アジアの動向	日露戦争の結果は、世界各国にどのような影響を与えたのだろうか。
	1	日本の産業革命	産業革命の光と影とは何だろうか。
	1	廃藩置県と琉球処分	沖縄にとって琉球処分とは何を意味したのか。
5章 第一次世界大戦と大衆社会			
欧米や日本など、世界各地に広まった大衆化とは、どのようなものだったのだろうか。			
9月	1	第一次世界大戦	第一次世界大戦は、なぜ世界をまきこむ戦争となったのだろうか。
	2	ロシア革命とソ連の成立	ソヴィエト政権はなぜ人々から支持されたのだろうか。
10月	1	米騒動とデモクラシー	米騒動の中で人々は何を求めたのだろうか。
	2	ヴェルサイユ体制とワシントン体制	第一次世界大戦後、どのような国際秩序が形成されたのだろうか。
	1	アジアの民族運動	第一次世界大戦後、東アジアではどのような変化が起こったのだろうか。
	1	第一次世界大戦後の欧米諸国	第一次世界大戦後の欧米諸国にはどのような動きがみられたのだろうか。
	1	ひろがる社会運動と普通選挙の実現	第一次世界大戦後、人々は何のようなことを望んだのだろうか。
	2	世界恐慌と各国の対応	世界恐慌は各国の経済や人々の生活にどのような影響を与えたのだろうか。
	2	ファシズムの時代	ファシスト党やナチ党は、どのようにして人々をひき付けていったのだろうか。
6章 経済危機と第二次世界大戦			
大衆は、どのようにして戦争を導いてしまったのだろうか。			
11月	2	満州事変と軍部の台頭	日本はどのようにして国際的孤立の道をすすんでいったのだろうか。
	2	日中戦争と戦時体制	中国との戦争は、なぜ長期化したのだろうか。
	2	第二次世界大戦の勃発	ヨーロッパでの戦いと、アジアの日中の戦争はどのようにしてむすびついたのだろうか。
12月	2	第二次世界大戦の終結	第二次世界大戦は、どのように進展し終結したのだろうか。
	2	第二次世界大戦と沖縄戦	なぜ沖縄戦が起こったのだろうか。
	1	国際連合の成立と冷戦	国際連合は設立の目的を十分にはたせてきたのだろうか。
	1	日本占領と日本国憲法	民主化政策によって、日本が戦前からかわったことは何だろうか。
	1	朝鮮戦争と日本	連合国の対日占領政策は、朝鮮戦争によってどのようにかわったのだろうか。
7章 冷戦と脱植民地化			
冷戦が展開されるなかで、植民地の独立等の国際秩序の変化は、日本の主権回復にどのような影響を与えたのだろうか。			
1月	1	植民地の独立	旧植民地は、どのように独立をはたしたのだろうか。
	1	米ソ両陣営の動揺	強力な軍勢力をほこった米ソが、影響力を弱めたのはなぜだろうか。
	1	日本の国際社会復帰と高度経済成長	冷戦は日本の政治と外交にどのような影響を与えたのだろうか。
	1	沖縄からみたベトナム戦争	ベトナム戦争は沖縄にどのような影響を与えたのだろうか。
8章 多極化する世界			
冷戦が終息に向かう中で、日本や世界の国々ではどのような経済成長を遂げたのだろうか。			
2月	1	石油危機と世界経済	石油危機以後の世界はどのような変化を見せたのだろうか。
	1	緊張緩和から冷戦の終息へ	米ソの動きは冷戦の終結にどのようにかわったのだろうか。
	1	日本の経済大国化	バブル経済はなぜ崩壊したのだろうか。
	1	多国籍企業について考える	多国籍企業はどのように私たちの生活に関わっているのだろうか。
9章 グローバル化と現代世界			
グローバル化が進む現代社会において、私たちは歴史から何を学び、問題に取り組んでいくべきだろうか。			
3月	1	地域紛争と対立	冷戦後の地域紛争の原因は何か
	1	パレスチナ問題	パレスチナ問題に原因は本当に宗教的対立なのか。
	1	国際秩序の変容	グローバル化がすすむなかで、各国はどのような動きをみせたのだろうか。
	1	持続可能な社会をめざして	現在に生きる私たちにとって、どのような問題について考えるべきだろうか。

令和5(2023)年度 「地理歴史科」 シラバス

南風原高等学校

科目名	単位数	学年・コース	必・選	使用教科書等
沖縄の歴史	2	3年 教養ビジネス 郷土文化 普通総合（特進クラス）	必修 必修 選択	『書き込み教科書改訂版 高等学校琉球・沖縄の歴史と文化』 東洋企画
<p>1 教科の概要および目標</p> <p>（概要）沖縄の歴史を先史時代から現代まで学ぶ。地方の視点から日本史や世界史とのかかわり、歴史展開の相違点に着目する。主権者教育の観点から沖縄関連の時事問題にも触れ、考える機会を設ける。</p> <p>（目標）1. 沖縄の歴史を事実に基づき把握し、歴史の構造とその変化の過程を理解する。</p> <p>2. 歴史を現代の課題と関連して主体的に学び、歴史的思考力を養う。</p> <p>3. 沖縄の歴史を日本や関係諸国の動きと関連して把握し、国際社会に生きる日本人としての自覚と資質を身につける。</p>				
<p>2 評価について</p> <p>以下の4つの観点をふまえ、①ワークシート+発表+行動観察（3割） ②定期テスト（7割）で評価する。 ※定期テストの回数は授業進度に応じ年に3～5回程度。</p>				
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
沖縄の歴史の学習を暗記ではなく、歴史的事実や現象に関心をもち、意欲的にそれらを探求する態度を身につける努力をしている。	歴史の事象や歴史の構造に問題を見出し、分析したり総合的に考えたり、科学的に思考したりできる。また、それを表現することができる。	沖縄の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	沖縄の歴史の展開についての基本的な事柄を総合的に理解し、その知識を身に付けている。	
<p>3 授業の展開と形態</p> <p>教科書中心にすすめる一斉授業では、用語を記入し、教師の説明や視聴覚教材の利用などで内容理解をすすめる。 単元によってはグループでの調べ学習、新聞記事読み合わせと感想記入・討論、フィールドワーク等を取り入れる。 全校単位の平和学習とリンクさせるため、6月は沖縄戦を含む単元を学習する。</p>				
<p>4 学習方法</p> <p>（授業中）教科書を読み、記入し、教師の説明に集中すること。グループワークでは各自が偏りなく役目を果たすこと。 （定期テスト前後）テスト範囲の読み直し、流れの確認をし、テスト後は点数のみではなく自身の学習活動への取り組み方や理解の度合い、疑問点が明確になるようにすること。 （その他）自身の家族史を聞き取りで、自身の考えと周囲や世間一般の相違点を情報ツールの適切な利用を通じて確認すること。</p>				
<p>5 年間指導計画</p>				
月	時数	単元・教材名	学習の目標(学習のねらい)	評価方法
4	8	なぜ「琉球・沖縄史を学ぶのか」 第1章先史時代の沖縄 ・貝塚時代の人々 ・ムラのはじまり ・グスク時代	沖縄には貝塚文化という独自性の強い文化が誕生したことや、先島には縄文・弥生文化は伝わらなかったことを理解する。	ワークシート 発表 行動観察
5	4	第2章 琉球王国の時代 ・按司の出現 ・第一尚氏 ・第二尚氏	中国が巨大な力を誇る中、周辺国に影響を与え、時には受けながら王国が形成されていったことを理解する。	ワークシート 発表 行動観察
6	10	第5章 十五年戦争と沖縄 ・日中戦争 ・軍国教育 ・沖縄戦	琉球処分より、中国との関係が切れて、沖縄県としてスタートした後に、日本への同化、皇民化教育が徹底され、悲惨な沖縄戦をむかえていくことを理解する。	ワークシート 発表 行動観察
7	8	第3章 薩摩の侵略と琉球王国 ・琉球侵略 ・薩摩の琉球政策 ・沖縄の文学	島津の侵入による政治体制は改革されたものの、対外貿易は存続したことや文化の繁栄について理解する。	ワークシート 発表 行動観察

9	12	第4章 琉球王国から沖縄県へ ・琉球処分 ・県政時代 ・自由民権 ・移民について	旧慣温存策の中、日本の歴史の中に組み込まれ、急速に進んだ文明開化と皇民化政策、自由民権運動、制度改革について理解する。	ワークシート 発表 行動観察
10 11 12	12	第6章 米軍支配下の沖縄 ・沖縄の米軍基地 ・琉球政府 ・日本復帰 ・米軍支配下での沖縄文化	戦後、すぐに平和がやってきたのではなく、収容所での生活や土地収用など、県民の苦労は長く続いたことをふまえ、本当の意味での戦後について考える。	ワークシート 発表 行動観察
1 2 3	16	第7章 復帰後の沖縄 ・沖縄返還協定と密約 ・復帰と変化 ・沖縄と米軍基地 ・21世紀の沖縄	復帰した沖縄が現在に至るまで、米軍基地や所得・雇用など様々な問題を抱えていることを理解する。 沖縄特有の条件を活かして、何ができるかを考える。 郷土を愛し、社会に出た時に、誇りを持って沖縄を語れるように知識を深め、活用できるようにする。	ワークシート 発表 行動観察
総時数		70時間		

令和5年度「世界史B」シラバス

教科	地歴公民	単位数	4	全コース・学年・組	3年 1～8組	必修
科目	世界史B					
学習の到達目標				使用教科書・副教材等		
世界史の大きな枠組みと流れを日本を含む諸地域世界の歴史と関連付けながら理解させる。				「高校世界史」山川出版社 「明解世界史図説 エスカリエ」帝国書院 「高校世界史ノート」山川出版社		
学習方法						
① 授業は、教科書や、「明解世界史図説」、ワークシートを中心に進めていきます。 ② 単元によっては学習の導入にあたり写真や動画なども活用します。 ③ 歴史年表や地図を活用し理解の定着を図ります。						
評価の方法及び評価資料						
① 日々の授業態度やワークシート、課題等の取り組み状況 ② 中間・期末等の定期考査、単元小テスト ③ 夏休みや冬休み等の長期休業中のレポート課題等 ②を6～7割、①と③を3～4とし評価します。						
評価の観点						
1. 関心・意欲・態度		2. 思考・判断・表現		3. 技能		4. 知識・理解
○世界の歴史への興味・関心を高め、主体的に探究していく態度を身につけている。		○文化の多様性と現代世界の特質を多角的かつ広い視野から考察し、歴史的思考力を培っている。		○地図や史料、絵画・図版などから適切な内容を読み取り、自分の言葉で指摘、表現することができる。		○現代社会が直面する諸課題について、歴史的観点から考察し、主体的な追究を通して認識を深めている。
月	時数	単元・教材名	学習の目標(学習のねらい)			
4月	2	第Ⅰ部 序章 先史の世界	・人類が自然環境に適応しながら進化し、農耕・牧畜を基礎とする諸文明を築き上げたことに気付くと同時に、人類と言語の分化を理解する。			
	11	第Ⅰ部 第1章 オリエントと地中海世界	・西アジア世界、地中海一帯の地理的特質を把握し、オリエント文明の盛衰、イラン人の活動、エーゲ文明、ギリシア・ヘレニズム文明、ローマ文明の特質を理解する。			
5月	9	第Ⅰ部 第2章 アジア・アメリカの古代文明	・アジア、南北アメリカの地理的特質を把握し、各文明の成立と発展、独自の宗教・社会制度など、形成過程・動向・特色を理解する。			
	6	第Ⅰ部 第3章 内陸アジア世界・東アジア世界の成立	・北方遊牧民族の動向と、三国時代から魏晋南北朝という中国の分裂と動乱の時代、隋唐帝国の国家制度や文化、日本を含む東アジア世界諸国の国家体制の整備やその動向を理解する。			
6月 ～ 7月	7	第Ⅱ部 第4章 イスラーム世界の形成と発展	・イスラーム世界成立の背景とその特質とその影響、学問と文化活動の内容、イスラーム都市を中心としたネットワークの役割を理解する。			
	13	第Ⅱ部 第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展	・封建社会の成立、ビザンツ帝国の繁栄とその社会や文化、スラヴ人と周辺諸民族の自立の過程を理解し、十字軍以降の西ヨーロッパ中世世界の変容、教会と修道院、ヨーロッパ中世文化の特色を理解する。			

9 月	8	第II部 第6章 内陸アジアの世界・東アジア世界の展開	・トルコ人の活動とイスラーム化の進展を理解し、契丹や女真、モンゴル帝国の興亡と、日本を含む諸地域世界にあたえた影響を理解する。
	7	第III部 第7章 アジア諸地域の繁栄	・明朝、清朝の動向と朝鮮や日本など東アジア世界の状況を理解する。 ・トルコ・イラン世界に誕生したイスラーム帝国の動向を理解する。 ・ムガル帝国の動向と東南アジア交易の発展を理解する。
1 0 月	8	第III部 第8章 近世ヨーロッパ世界の形成	・ヨーロッパの拡大とアメリカ大陸の征服、ルネサンスのもたらした芸術・思想・科学の変革の内容と意義を理解し、宗教改革の拡大、カトリック教会の対応、ヨーロッパ諸国の戦争の動向を理解する。
	7	第III部 第9章 近世ヨーロッパ世界の展開	・17～18世紀における主権国家諸国の動向と文化の特色を、重商主義と啓蒙専制主義を柱として理解する。 ・植民地争奪と大西洋三角貿易の国際的枠組みを理解する。
1 1 月	6	第III部 第10章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	・イギリス産業革命の背景と展開、その影響について理解する。 ・アメリカ独立革命とフランス革命が民主政治に与えた影響を理解する。
	10	第III部 第11章 欧米における近代国民国家の発展	・ウィーン体制の成立とクリミア戦争以後の国際秩序の再編と併せ、ラテンアメリカの独立、アメリカ合衆国の領土拡張と南北戦争以後の発展を理解し、かつ19世紀の欧米文化の特徴とその成立の背景を理解する。
	6	第III部 第12章 アジア諸地域の動揺	・オスマン帝国とイラン・アフガニスタンの動向、インドと東南アジア諸国の植民地化の過程を理解し、ヨーロッパ諸国の干渉による清朝の動揺と近代化改革、日本の開国による東アジア国際秩序の再編を理解する。
1 1 月 ～ 1 2 月	8	第IV部 第13章 帝国主義とアジアの民族運動	・帝国主義時代の欧米列強による世界各地の分割や植民地化をめぐる競合と、従属させられた地域社会の抵抗と変容を理解し、欧米諸国の支配を受けたアジア諸国の改革と民族運動の形成を理解する。
	15	第IV部 第14章 二つの世界大戦	・第一次世界大戦とロシア革命、ヴェルサイユ体制下の欧米諸国の動向を理解し、中国や東南アジア諸国、インド、西アジア諸国、アフリカの民族運動の展開を理解する。世界恐慌以降の国際的な緊張が高まる時代から第二次世界大戦に至る過程と、米ソの国際的地位の高まりを理解する。
1 月 ～ 2 月	10	第IV部 第15章 冷戦と第三世界の独立	・米ソを中心とした冷戦体制の成立、中華人民共和国の成立やアジア諸地域の独立の過程を理解し、日本・西欧の経済復興や「雪どけ」の始まりによって、国際政治や経済が多極化に向かったことを理解する。アジア・アフリカ諸国が第三勢力として躍進し発言力を強めたことを理解し、オイル＝ショック以降の国際経済の再編、冷戦の終結への流れを理解する。
	7	第IV部 第16章 現在の世界	・東欧社会主義圏の消滅とソ連邦の解体、途上国の民主化の進展とアジア社会主義国家の変容を理解する。多発する地域紛争の解決や軍縮の試み、科学技術の発達と現代文明の抱える現状と課題について理解する。
総時数	140		

令和 5 (2023)年度 公民科シラバス

科目名	単位数	学年	コース	必・選	使用教科書等
政治・経済	2	3	普通総合	選択	高等学校改訂版 政治・経済 第一学習社 改訂版政治・経済ノート 第一学習社

1. 科目の概要および目標

(1) 概要

現代の政治、経済、国際関係の動向や本質を把握させ、それらに関する客観的な見方や考え方を深めさせて、平和で民主的な国家・社会の有為な形成者として必要な国民としての資質を養う。

(2) 目標

広い視野に立って、民主主義に関する理解を深め、現代における政治・経済、国際関係などについて客観的に理解し、それらに関する諸課題について主体的に考察し、公正な判断力を養うようにします。

2. 評価の観点

(1) 評価の観点

1. 関心・意欲・態度	2. 思考・判断・表現	3. 資料活用の技能	4. 知識・理解
現代の政治、経済、国際関係に対する関心を高め、意欲的に課題追求するとともに、国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現について客観的に観察することができる。	現代の政治、経済、国際関係に関わる事柄から課題を見だし、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現できる。	現代の政治、経済、国際関係に関わる諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用できる。	現代の政治、経済、国際関係に関する基本的な事柄や、本質、特質及び動向を捉える基本的な概念や理論を理解し、その知識を身につける。

(2) 評価の方法

- ①日々の授業態度やプリント、政治・経済ノート、宿題等の取り組み状況
 - ②中間・期末等の定期考査や実力テスト等 7割
 - ③夏休みや冬休み等の長期休業中の課題
 - ④課題追究学習におけるレポートや発表
- これらをもとに総合的に判断し、評価を進めていきます。

3. 授業の展開と形態

政治経済の授業はクラス単位で実施します。時にはグループ学習、ペアワークなどを実施し、主体的・対話的に考える授業をします。

4. 学習方法

- (1) 授業は、教科書や「政治・経済ノート」、先生方が準備するプリント、板書を中心に進めていきます。
- (2) 学習内容に応じて図書館やインターネット等も活用していきます。
- (3) 日頃から新聞等に親しみ、社会で起きている諸問題について関心を高めるようにしましょう。

5. 年間学習計画

第1編 現代の政治

日本の政治および国際政治について関心を高め、政治についての基本的な見方や考え方を身につけるために、政治に関する基本的な概念や理論について学習させる。

月	時数	章	単元・教材名	学習の目標(学習のねらい)
4月	1	第1章	①政治と法の機能	・基本的人権が確立するまでの歩みを理解し、現代の政治の特質について考察させる。
	2		②人権保障と法の支配	
	1		③議会制民主主義と世界の政治体制	
5月	2	民主政治の基本原則と日本国憲法	④日本国憲法の基本原理	・日本国憲法の成立過程を理解し、日本国憲法のもつ意味について考察する。また、三大原理についても理解させる。
	1		⑤平和主義と自衛隊	・日本の防衛政策の原則と在日米軍基地の現状、また、自衛隊が果たしている役割について理解させる。
5月	2		⑥基本的人権の保障と新しい人権	・日本国憲法の全体像にふれながら、平和や人権などの問題を考えさせる。
	2		⑦国会の組織と立法	・国会、内閣、裁判所などの政治機構にふれながら、主権者としての政治に対する関心を高める。また、日本国憲法下での政治機構について理解させる。
	2		⑧内閣の機構と行政	
	2		⑨裁判所の機能と司法制度	
2	⑩地方自治制度と住民の権利			
5月	2		日本国憲法	⑪政党政治と選挙制度
6月	1	⑫民主政治における世論の役割		・マス＝メディアの果たす役割と問題点を理解し、世論の果たす役割が大きいことについて理解させる。

6月～7月	1	第2章 と日本の 現代の国際政治	①国際社会と国際法	・国際連合の役割を理解する。また、現実には国際連合はどのような問題を抱えているのかについて学習させる。
	1		②国際連合の組織と役割	
	1		③国際政治の動向	
6月～7月	1		④国際紛争と難民問題	・国際平和と人類の福祉に向けて、日本が果たすべき役割について考えさせる。その際、広い視野から考えさせる。
	1		⑤軍備管理と軍縮	
	1		⑥日本の外交と国際平和への役割	

第2編 現代の経済

現代の日本経済及び世界経済の動向について関心を高め、現代経済の機能について理解し、経済についての基本的な見方や考え方を学習させる。

月	時数	章	単元・教材名	学習の目標(学習のねらい)
9月～10月	2	第1章 現代経済のしくみと特質	①経済社会の発展	・資本主義の特質と問題点を理解させる。
	2		②経済主体と経済活動	・経済の基本的な概念や経済理論を学習し、現代経済の特質について考えさせる。
	2		③市場経済の機能と限界	・市場の基本である「需要と供給との関係」について、正しく理解させる。
	2		④経済成長と景気変動	・経済活動の目的が国民の福祉の向上にあることを理解し、その実現のためには経済成長と景気の安定が必要であることに気づかせる。
	2		⑤物価の動き	・インフレ、デフレなどの基本的な用語を正しく理解させる。
	2		⑥金融のしくみとはたらき	・金融機関の基本的なしくみや役割について理解させる。
	1		⑦財政のしくみとはたらき	・財政の基本的なしくみや役割について理解させる。
	2		⑧日本経済のあゆみ	・戦後日本経済の民主化の歩み、高度成長からバブル崩壊後までの日本経済の歩みを理解させる。
	1		⑨中小企業の地位と役割	・日本経済における中小企業の役割と課題について理解させる。
	2		⑩農業の現状と課題	・日本の農業政策と今後の方向性について考えさせる。
11月～12月	1	第1章	⑪消費者問題	・主体的に自立した消費者になれるように考えさせる。
	1		⑫高度情報社会の進展と課題	・高度情報社会の課題と対応策について考えさせる。
	3		⑬労働問題	・様々な労働問題について理解し、今後の雇用保障について考えさせる。
	2		⑭社会保障制度の充実	・社会保障の意味と必要性について理解し、高齢社会を迎える日本のあり方を考えさせる。
	3		⑮環境保全と資源・エネルギー問題	・地球環境問題の現状と課題について考えさせる。
	2	第2章 国民経済と国際経済	①国際経済のしくみ	・国際収支の基本的な構成を理解させ、経済摩擦の要因である不均衡が生じる原因について学習させる。
11月～12月	1		②国際協調と国際経済機関の役割	・国際協調のために、どのような国際機関が存在するか、把握させる。
	1		③地域的経済統合	・地域的経済統合の動きなどがみられることを学習させる。
	1		④グローバル化する経済	・日本の経済摩擦や貿易の問題、国際経済のグローバル化について考えさせる。
	1		⑤南北問題と日本の役割	・南北問題の原因と、解決への取り組みと、日本の役割について考えさせる。

第3編 現代社会の諸課題

第1編、第2編で学習した基本的な理解を深め、現代の政治や経済の諸課題を追究する学習を行い、望ましい解決策について考察する。

月	時数	単元・教材名	学習の目標(学習のねらい)
1月～2月	5	①少子高齢社会と社会保障	・現代の日本が抱える課題(①～⑤の中から選択)を、政治と経済との関連に留意しながら、さまざまな角度(視点)から考察し、望ましい解決のあり方を考えさせる。
		②地域社会の変貌と住民生活	
		③雇用と労働をめぐる問題	
		④産業構造の変化と中小企業	
		⑤農業と食料問題	
	5	①地球環境と資源・エネルギー問題	・国際社会における課題(①～④の中から選択)を、国際的な視点から追究しながら、日本の役割について考察する。 ・国際社会の課題は複雑であり、政治・経済の枠をこえたものが多く、国際関係に大きな影響を与えることを認識しながら考察させる。
		②国際経済格差の是正と国際協力	
		③人種・民族問題と地域紛争	
1	④国際社会における日本の役割		
年間総時数	70		

教科	公民	単位数	2	コース・学年	3年普通総合コース	選択
科目	倫理	使用教科書等	高等学校改訂版 倫理 第一学習社 改訂版倫理ノート 第一学習社			

1 科目の概要および目標

概要 人間の存在や価値に関わる基本的な課題について思索する活動を通して、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念にも基づいて国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家の形成者としての必要な資質・能力を身につけるよう指導していく。

目標 人間としての在り方・生き方についての見方・考え方を働かせ、青年期における自己形成について思索を深めさせるとともに、人格の形成に努める実践的な意欲を高め、他者と友に生きる主体としての自己確立を促し、良識ある公民として必要な能力と説明したり対話したりする力を養う

(1) 評価の観点

1. 関心・意欲・態度	2. 思考・判断・表現	3. 技能	4. 知識・理解
人間尊重の精神に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方、生き方について理解と思索を深めさせるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民としての必要な能力と態度を育てる。	生きる主体としての自己の確立について広く課題を見だし、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探究するとともに、良識ある公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断し、その過程や結果を様々な方法で適切に表現する。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択して、これらを自己形成に資するように活用し、学び方を身につける。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関わる基本的な事柄を、生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し、人格形成に生かす知識として身につけている。

(2) 評価の方法

- ①定期考査や実力考査の内容 60%~70%
- ②日々の授業態度やプリント、演習ノートなどの取り組み状況
- ③長期休暇中の宿題 30%~40%
- ④授業時の発表やレポート これらを総合的に判断して評価を決定

3 授業の展開と形態

倫理の授業は学級単位ごとに実施。グループ学習やペアワークなどを通して、主体的・対話的に物事を考える力を身につけさせる。

4 学習方法

- (1) 授業は、教科書・準拠ノートやプリントを使いながら進めていく
- (2) 学習内容に応じて図書館やインターネットなども活用する
- (3) ニュースを観て時事問題や自分の考えをまとめる練習をおこなう

月	時数	単元・教材名	学習の目標(学習のねらい)	
第1章 青年期の課題と自己形成				
人間とは何かを考え、今を生きる青年期の特徴を理解しながら、客観的に自己を見つめる力を養い、主体的に自己形成の課題を追求していく課題解決能力を養う。				
4月	1	①よく生きることを求めて	・人間の特徴とは何かを理解する。	
	1	②青年期の課題	・自分の生きている青年期はどのような位置にあり、どのような発達課題があるのかを考える。	
		1-青年期とは何か		
		2-青年期の思考と感情 3-青年期の人間関係	・青年期の心身の特徴を把握するとともに、青年期の悩みの心理的特徴に気づき、悩むことが自己形成につながることを理解する。	
1	4-青年期の自己形成	・青年期の心身の特徴を把握する		
月	時数	単元・教材名	学習の目標(学習のねらい)	
第2章 人間としての自覚				
5月	1	①ギリシャの思想	・ギリシャの思想家のものの見方・考え方を理解することにより、古代ギリシャの思想は、私たちにとってどのような意味を持つのかを考える。	
		1-哲学の形成		
		2-ソクラテス	・ソクラテスの「無知の知」やプラトンのイデア論はどのようなものであるか、両者を比較しながら考察する。	
		3-プラトン		
	1	4-アリストテレス	・アリストテレスの現実主義の立場を、プラトンのイデア論と対比しながら理解する。	
		5-ギリシャ思想の展開	・ポリス中心の考え方に変わり、個人の内面的平安を求める思想が現れたことを理解する。	
	6月	2	②キリスト教	・世界で起こっている宗教を原因とする争いを調べ、宗教とは何かについて、意欲的に考察する・哲学や宗教の意義を考え、先人の生き方を手がかりに、どのように生きていくべきかを学ぶ。・イエスの思想をユダヤ教と対比させて、神の愛・律法の内面化という視点を中心に理解する。
			1-ユダヤ教の世界 2-イエス	
		1	3-キリスト教の発展	・キリスト教信仰の構造に関心を持ち、キリスト教的な生き方や人間観の特徴を理解する
		1	③イスラーム	・イスラームはどのようにして誕生したか、ムハンマドの教えにはどのような特徴があるのか、ユダヤ教やキリスト教とはどのように関係するかを理解する。
④仏教			・インドの人々はどのような死生観を持っているかを理解する。	
2		1-インドの思想文化		
	2-ゴータマの教説 3-仏教思想の展開	・ゴータマの教えは、深い思索を続ける生き方そのものであることを理解する。 ・「ゴータマの言葉」を考え仏教の基本である、人間どうしが支え合いながら生きていく事を知る		
7月	1	⑤中国の思想	・中国の人々の自然観・人生観を理解する。・陰陽五行や風水など、身近なものにも中国の思想との関わりがあることを知り、中国の思想に対する興味・関心を高める。	
		1-中国の思想文化		
	3	2-儒家の思想 3-道家の思想	・中国の思想は、歴史的に日本に最も大きな影響を与えたものであることを知り、私たちの現在や未来にどのよう関わっているのかを考察する。	

第3章 国際社会に生きる日本人としての自覚			
風土と文化の形成との関係性や、日本人の道徳心、倫理観の関係性を相対的に考え、理解する理解力を養う。			
9	1	日本人としての自覚 ①日本の風土と伝統	・日本人の精神的特性が、日本の風土とどのように関連しているのかを考える。
	2	②外来思想の受容 1-日本仏教の展開	・日本の思想や文化に大きな影響を与えている仏教や儒教が日本にどのように伝えられ、どのように変容していったのか、その大きな流れを把握する。
	1	2-日本儒学の展開	・日本人の価値意識と儒教との関連について理解し、正の部分、負の部分をもとに検討する。
	1	③町人意識のめざめと庶民思想 1-義理と人情	・義理と人情、儉約と正直、勤労の倫理など、現代に流れる思想に対する興味・関心を高め、日本人の庶民思想や勤労倫理の特質はどこにあるのかに気づく。
	1	2-国学の成立	・国学の思想と私たちの考え方で、共通するところ、異なるところを考察する
	1	3-庶民の思想 4-伝統思想の成熟	・義理と人情の観念、国学が提唱した人間尊重の思想、現代に流れる庶民思想は、どういふものかを理解する
	2	④西洋思想との出会い 1-幕末の思想	・幕末の思想の特質や、文明開化が日本の伝統社会にどのような変化をもたらしたかを把握する。
	1	2-明治の啓蒙思想	・日本の近代思想がどのように展開していったかを理解する。
	2	3-日本社会とキリスト教 4-近代的自我の確立	・日本人のものの見方・考え方の中で、西洋思想の受容によって形成されたと考えられるものについて資料を収集し、国際社会に生きる日本人としての生き方・考え方をまとめる。
	2	5-社会思想の展開 6-近代日本の思想課題	・日本思想のまとめとして、国際社会に生きる日本人として、これからの自分の生き方やあり方について考える意欲を高め、今後の生き方について考える。
第4章 現代に生きる人間の倫理			
ルネサンスや宗教改革が、近代の人間観の形成に与えた影響を理解し、判断する力を養う。			
10	2	①人間の尊厳 1-ルネサンスと宗教改革	・人間の尊厳に関わる思想家の思索を通して、西洋の近代人は、人間の尊厳をどこに見いだしていたのかを考える。・現代社会において人間の尊厳を自覚することの意義について考える。
	1	2-人間性の探究	・先哲の思想の中から、人間の尊厳に関わる資料を収集し、活用する。
	1	②近代の科学革命と自然観 1-近代の科学革命	・近代の科学はどのような背景から生まれてきたかを理解する。
	2	2-経験論と合理論	・ベーコンやデカルトによる科学的な考え方の特色を理解し、科学技術の発達と自然との共生についての興味・関心を高める。
	1	3-近代科学と社会の進歩	・経験論と合理論の考え方の特色はどこにあるのかを、自己の課題とつなげて理解する。
	2	③自由で平等な社会の実現 1-社会契約の思想	・近代ヨーロッパの社会契約説を通して、民主社会の成り立ちを理解し、民主社会を実現した社会契約の思想について、多面的・多角的に考察する。
11	2	2-人格の尊厳と自由-カント 3-人倫と自由の実現-ヘーゲル	・カントやヘーゲルの思索の内容を整理して理解する。
	1	4-功利主義の思想	・ベンサムやミルの幸福に対する考え方の違いを理解する。 ・功利主義の思想からよく生きるとはどういうことかを理解し、自分自身の生き方につなげる
	2	④人間性の回復と主体性の確立 1-社会主義の思想	・社会主義の生まれた背景とその発展過程、現代の社会主義について考察する。
	2	2-実存主義の思想	・実存主義が追究した生き方とはどのようなものかを理解する。 ・主体的なあり方は、努力を伴う生き方であることを、実存主義の思想から考察する。
12月	1	3-プラグマティズムの思想	・略伝や図版を活用して、思想家の人生をたどりながら思想内容を理解する。
	5	⑤現代の思想と人間像 1-心の深層と無意識 2-生の哲学と現象学 3-近代的理性と言語 4-正義と社会	・前節までの学習を踏まえ、現代の思想は、それまでの思想からどのような影響を受け、それらをどのように乗り越えようとしているかを考察する。 ・フロイトやレヴィ-ストロースらの著作を読み、現代の思想が発見したり注目したりしてきたものは何かを理解する。
	1	⑥生命への畏敬と社会参加	・実践された倫理を貫いた人々の生き方に対する興味・関心を高め、生命への畏敬や本当の愛とはどのようなものかを理解する。
第5章 現代の諸課題と倫理			
現代社会における諸課題を考察し、生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民としての必要な能力と態度を育てる。			
1	2	①生命の問題と倫理課題 1-生殖医療と遺伝子操作 2-脳死臓器移植と再生医療	・クローン技術、遺伝子組換え、脳死臓器移植、安楽死と尊厳死、医療における自己決定権などのテーマから、探究したい課題を見だし、多面的・多角的に考察する。
	2	②環境の問題と倫理課題 1-有限な地球環境 2-生物多様性と自然との共生 3-予防原則と世代間倫理	・地球規模だけでなく、身近なところで起こっている環境問題について調べ、有限な資源を未来の世代にも配分するには何をすればよいか、環境倫理の考え方はどのようなものか、などについて考察する。
	2	③家族・地域社会と倫理課題 1-少子化と男女共同参画社会 2-高齢化と地域社会	・少子高齢化社会の問題点を、家族の形態や地域社会はどのように変化してきたか、それらに期待される役割とはどういったものか、などについて考察する。
2月	2	④情報社会と倫理課題 1-情報の洪水と情報リテラシー 2-ネットワーク社会と情報モラル	・情報社会を生きていくために必要な能力、情報モラルに関する問題などのテーマから、探究したい課題を見だし、多面的・多角的に考察するとともに、広い視野に立って主体的かつ公正に判断する。
	2	⑤宗教・文化と倫理課題 1-宗教信仰への理解と現代世界 2-異文化理解と多文化共生	・異文化を理解するためには、社会全体でどのような取り組みが必要かを考察する。 ・多様な外国人と交流する際の倫理的課題は何か、などのテーマから探究したい課題を見だし、多面的・多角的に考察するとともに、広い視野に立って主体的かつ公正に判断する。
	2	⑥国際平和と人類の福祉 1-地球市民として 2-平和な世界に向け	・各国間の経済格差の解消、自立を支援するための援助、難民や女性・子どもの人権保障、核兵器の廃絶など、人類全体の福祉実現に向けた取り組みを調べ、地球市民としての生き方を探究する。
	70		